

## 巻頭言

地域包括ケアシステムのこれから  
——全ての人がつながりあう社会をつくる——

石田 千絵

日本赤十字看護大学看護学部地域看護学

日本地域看護学会誌, 27 (3) : 5, 2024

2025年9月6日から7日に東京(広尾)にて、「地域共生社会のこれから」をテーマに、第28回日本地域看護学会学術集会を開催いたします。

急速な少子高齢化や人口減少、地域間の格差が進むなかで、地域共生社会は、住民1人ひとりが自分らしく暮らしながら、支え合い、助け合うことのできる社会の実現を目指す重要な理念です。2025年という節目に際し、このテーマには、これからの地域社会が目指すべき方向性を議論し、新たな一步を踏み出す契機にしたいという願いを込めました。

地域共生社会は、全ての人安心して暮らせる社会を実現するための基盤となります。その構築には、多様なニーズに応じた保健・医療・福祉による統合的な支援、さらには社会的孤立や貧困、災害リスクへの対応といった課題への取り組みが不可欠です。また、住民が主体的に役割をもち、多様な主体が協働する仕組みの構築が求められます。地域看護は、そのような社会において、住民の健康と生活を支える要となる存在です。看護職が地域のなかでどのように支援を展開し、住民の生活に寄り添うかは、地域共生社会の成否を左右する重要な要素といえます。しかしながら、地域共生社会の実現は決して容易ではありません。現代社会が直面する課題は複雑であり、多様性が広がる地域では各地域の特性に応じた柔軟な対応が求められます。そのなかでも特に重要なのは、住民1人ひとりや支援を必要とする多様な当事者の声に耳を傾けることです。

そこで、今回の学術集会では、本学会を通じて参加者同士が新たなネットワークを築き、多職種や異なる地域との連携を進める契機となるように、当事者を主体にディスカッションできる場や災害時に係る多職種連携・学際的連携について終日、学び合える場も設けます。また、東京都渋谷区という大都市の特性をはじめ、主に関東地方における保健・医療・福祉職の活動に注目して、多職種連携を生かした地域包括ケアの実践等、地域看護の現場で培われた知見や研究成果を共有し、新たな視点を得る機会を提供します。

学会参加者の交流のなかで生まれる新たなアイデアや協働の可能性は地域看護にとどまらず、地域社会全体により影響を及ぼすでしょう。さらに、若手研究者や実践者の発表を通じて、地域看護の未来を担う人材の成長を支援することも、本学術集会の重要な役割と考えています。

また、今回のテーマを通じて、地域住民が共生社会の中心的な存在であることを改めて認識していただけたと思います。地域看護は住民を支える存在であると同時に、住民自身の力を引き出し、主体的な行動を促す役割も担っています。参加者のみなさまが本学会で新たな気づきを得て、それぞれの地域に戻った際に活用できる知見やネットワークを持ち帰ることができる集会となるよう願っております。本学術集会が、地域共生社会の未来に向けた大きな一歩となることを心より期待しております。みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。